

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772500423
法人名	特定非営利活動法人 縁21
事業所名	グループホーム かなめ
訪問調査日	平成 21年 10月 6日
評価確定日	平成 21年 11月 4日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月13日

【評価実施概要】

事業所番号	2772500423		
法人名	特定非営利活動法人 縁21		
事業所名	グループホーム かなめ		
所在地	大阪府池田市室町4番37号 (電話) 072-752-7695		
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年10月6日	評価確定日	平成21年11月4日

【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	16人	常勤 2人, 非常勤 14人, 常勤換算 6、7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建て	1階	～ 階)

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(315,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,250 円

(4) 利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	5名	男性 名	女性 5名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84.8歳	最低 77歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田回生病院、本町診療所、おおたクリニック、河合歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

阪急宝塚線池田駅周辺に日本で一番古い郊外型住宅地として開発された室町地区に位置している。北に五月山を臨み西に猪名川の清流があり緑に囲まれた自然環境が備わっている。平成13年4月に開設され、9年目を迎えた定員6名の事業所は2階建ての一階部分で運営しており、2階は女性専用知的障害者グループホームである。NPO法人は近隣に男性専用知的障害者ホームも運営している。開設以来勤務している管理者は職員との意思疎通がよく、小規模の特色を最大限に活かした心のこもった支援を実践している。利用者と共に近隣の市場での食材の買い物等はスローガンである“当たり前で暮らせる”というゆったりとした時間が流れている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回での改善課題①運営推進会議の増回②職員を育てる取り組み③重度化に向けた事業所の取り組みに関し①は年4回開催され中味も双方向な議論となっている。②は外部研修を積極的に行い、それを基に職員会議で再研修を行っている等改善が図られた。③は次回に持ち越された。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は一連の評価の意義を理解している。自己評価票は職員に明示し、職員が参加した自己評価となっていると共に職員会議で改善の取り組みが行われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年の運営推進会議は4回開催され、その議事録は微細なことまで記録されている。単なる行事報告だけにとどまらず家族や出席者から双方向の意見が出され、その対応も会議で検討されている。そして職員会議で検討課題が話し合われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時には利用者の健康状態等を報告し、家族と相談している。訪問が少ない利用者は電話等を利用した報告をして家族の意見を聞くように努めている。運営推進会議には家族の出席が多く、意見が活発に出されている。事業所は真摯にその対応を行っている。年1回敬老会を利用した家族会を開催している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎月町内2カ所の掲示板に「茶話会」と「食事会」の案内チラシを貼り、地域との交流会を開催している。法人として自治会に加入し、また利用者全員が老人会に加入し、神社祭りなど地域行事に積極的に参加している。利用者は職員と共に近隣の市場での野菜やスーパーでの食材等の買出しをし、日々普通の楽しい生活や地域の人達とのお付き合いが実践されている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“地域の中で当たり前暮らし、家庭的な明るい環境の中で人間の尊厳を大切に生きていく”という地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	サービス提供場面や職員会議で常に理念を振り返るよう話し合われている。また地域との交流の中で日々理念の実践が取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として自治会に加入し、また利用者は老人会に加入し、地域の行事(神社祭りや防災活動等)に積極的に参加している。近隣の方々に呼びかけ、毎月茶話会や食事会を行ったり、近くの市場やスーパーへ食材を買出しに行くことは利用者にとって楽しみである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は一連の評価の意義を理解している。職員は自己評価票には出来る範囲で取り組みが行われている。外部評価は職員会議で明示され、改善に向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この1年に4回開催され、メンバーは池田市介護課職員、自治会長、民生委員、家族、入居者、ホーム長で構成されている。会議は報告事項だけでなく、出席者の意見を積極的に聞き課題の取り組みを行っている。議事録には家族の意見が微細なことでもきちんと記録され、真摯に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と運営に関する課題の相談を行い、市の情報を得よう努めている。介護相談員を毎月受け入れ、利用者と事業所の“橋渡しの意見”を真摯に聞き参考としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には出来るだけホームの暮らしぶりを報告している。来訪の少ない家族には電話を利用して健康状態等の報告を行っている。ホーム便りも定期的に発行している。金銭管理は、現在は行っている人がいない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には意見を言い易い雰囲気作りを心がけている。ノートに記録された家族の苦情等の意見は職員会議で対応が図られている。運営推進会議でも家族の積極的な意見に真摯に対応している。敬老会を利用した家族会が年1回開催されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を極力少ないようにし、家族の信頼を損ねないように努めている。やむを得ず離職がある時は職員間の引継ぎに時間をかけ、利用者には丁寧な説明を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として外部研修を年4回以上行い、受講者による発表会は内部研修として位置づけている。特に最近入社した若い介護福祉士には将来に向けた暖かい指導と事業所としてのサポート体制が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内8カ所が参加するグループホーム連絡会に積極的に参加し、管理者による相互訪問等の見学会が実行されている。連絡会で今後の新たな取り組みが検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けてから、利用者や家族とは出来るだけ話し合い、体験入居を利用しながら職員や他の利用者との馴染みを大切にしている。入居後も暫くは不安解消に配慮し、家族との相談は行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ゆったりした時間の流れと共に利用者の過去の経歴から学んだり、また支えあったりした関係を築いている。職員は一人ひとりの日々の思いや気付いたことを記録し、職員間で共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を利用者同士の会話や日々の生活の中で汲み取るように努めている。また家族との面会時や職員ミーティングで意向の把握を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、関係者と相談し、利用者本位にケアのあり方を検討している。またスタッフ全員で月1回のカンファレンスを行い丁寧な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月新鮮な眼でモニタリングを行っている。3ヶ月に1回サービス計画書2を作成し、6ヶ月に1回サービス計画書1の見直しを実行している。また利用者の状態変化のときはその都度、家族やかかりつけ医と相談しながら臨機応変に計画の変更にも対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況を判断し、通院と特別な外出支援を行っている。また家族の事前の届けを前提に外泊支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を利用者・家族が決めることになっている。利用者は入居以前のかかりつけ医および家族が納得の上での事業所の協力医療機関から月2回の往診を受けている。定期的な往診と認知症専門医の支援が実行されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医と相談し、重度化における職員間の認識の共有はしているが、事業所として終末期における対応指針書の作成と家族の同意や家族の気持ちが変わることに対応する共有がされていない。	○	事業所として看取りの方針はあるものの、早い段階から家族と終末期対応指針書を交わし、それに基づく繰返しとの話し合いを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや態度には日々の仕事を通じて、管理者は気付いたときに指導していると共に永遠のテーマとして配慮している。個人情報保護法に基づいた情報の漏洩等の防止取り組みが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者の様子を丁寧に観察し、出来るだけ一人ひとりのペースにあわせ、本人の希望に添った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣の市場やスーパーに食材の野菜・肉・魚等の買出しに出かけることは利用者の楽しみである。利用者は出来る下準備や後片付けを行い、職員と一緒に食事を楽しんでいる。食材は毎日買って使い切るよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望を聞き、日常は平均2日に1回を基本とした入浴を行っている。拒むかたにも言葉かけや対応の工夫をし、入浴が楽しめるような雰囲気と会話を大切に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや洗濯、掃除等本人本位が役割を持つ支援の継続が行われている。また散歩、買い物、塗り絵、歌、パズル等の楽しみの支援も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の川の土手や神社や旧家の町並み散歩を日常的に行い、また買い物やドライブ支援は利用者の楽しみとなっている。家族との外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず、自由に出入りが出来る。利用者が外出しそうな様子を察知した時は、出来るだけさりげなく一緒に出かけるように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に消防の協力を得て避難訓練や消火訓練を行っている。また地域の防火訓練に事業所が参加している。非常災害に備えて消防計画、風水害や地震の対処計画を作成し、責任者を定めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量はチェック表で管理され利用者ごとの健康状態に気をつけている。新鮮な野菜等栄養のバランスを考慮した食事が職員の手で作られている。また利用者は元気で明るくほぼ完食している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関横に事務室が配置され居間・食堂が中央にあり、その周囲に居室・調理室・トイレ・浴室等が分かり易く配置されている。居間全体は広々としたゆったり感が感じられる。ところどころに絵や写真や季節感がある手づくりの作品が展示され、居心地よく過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が分かり易い入口となっている工夫がされており、居室は一人ひとりの思い出がある家具等が置かれている。季節の衣替えに家族が支援している。職員は家族と相談して写真や小物を飾り、居心地よく暮らせる支援が行われている。		